

令和 6 年 3 月 27 日

国立病院臨床検査技師協会

関信支部 支部長

吉田 茂久 殿

令和 5 年度 監査報告書

私たちは国立病院臨床検査技師協会関東信越支部規定第 17 条に基づき、令和 5 年度（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）国立病院臨床検査技師会関信支部の会務活動ならびに会計監査を行ったので次のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

- 1) 会務監査について地区代表者会議に出席し、理事からの会務報告及び地区代表者からの意見を聴取しました。また、関係書類など必要と思われる資料の閲覧により業務執行の妥当性を検討し監査を実施しました。
- 2) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧により会計報告書の正確性を検討し監査を実施しました。

2. 監査結果

【令和 5 年度会務】

1) 事務局について

(1) 組織の充実・関係協議会との連携

定期的で開催されている理事会に関しては Web 会議システム（Zoom）を使用した理事会が行われていました。研修会や各支部の理事会等でも積極的に Zoom を活用する機会が増えていました。支部各地区会との連携は 10 地区より理事を選出し、地区会総会では集合型開催を再開している地区もあり、各担当理事による支部活動報告が行われていました。また国臨協本部、臨床検査専門職、技師長協議会の連携・協力もされていました。地区代表者会議においては集合型で行われ、活発な議論がなされていました。今年度はハイブリッド型での症例検討会開催など、会員の意見を取り入れた試みがなされていました。少しずつですがコロナ禍前に戻りつつある印象を受けました。

(2) 事務管理の向上

国臨協本部からの依頼で年 3 回の会員調査を行い、支部ニュースおよびホームページを用いて定期的に情報提供をされていました。また会員調査については国臨協本部へ情報提供されていました。

(3) 文化活動

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度に引き続き合同交流会・

ビアパーティーなどの行事が中止になりました。

2) 学術について

(1) 国臨協関信支部学会の開催

第 51 回国臨協関信支部学会は「原点回帰」をテーマとして、今年度も双方向イベントプラットフォーム「EventIn」を用いてライブ配信型形式で学会が開催されました。午前中開催と時間を集約して行われていました。一般演題と他に分科会では学術委員による「バーチャルスライドを用いた症例検討」は視聴している方も見やすく、とてもいい試みだったと評価できます。

(2) 各種研修会の開催

2 回の研修会はオンデマンド配信で行われ、症例検討会については集合型とライブ配信のハイブリッドで行われました。ライブ配信では多数の方が参加されていましたが、集合型に関しましては参加人数が少なく、ハイブリッド開催時の課題が残りました。

3) 広報について

(1) 関信支部ホームページ

理事によるホームページの管理には負担が大きく、現在は外注化に向けて準備を進めています。支部ニュースに関しても PDF 化を進めて、経費削減に努めていくとの報告がありました。

(2) 会員の皆様の声

8 月より「会員の皆様の声」を新設し、会員の幅広い意見を取り入れる試みが開始されましたが、利用者が伸びておらず今後の検討課題です。

4) その他

(1) 国臨協関信支部表彰規定改訂

国臨協関信支部表彰規定改訂を行いました。内容に関しては本部の基準に合わせたものに統一されました。今後はホームページへ掲載予定との報告がありました。

(2) 次年度以降の事業計画について

集合型を再開しつつ、遠方の会員に向けては Web 配信も継続してほしい。

以上、令和 5 年度の会務内容は適正であり、理事の会務執行に関して不正行為や規約に違反する事実はないことを認めます。

【令和5年度会計】

令和5年度 会計に関する収入支出台帳をはじめ証拠書類・貯金通帳等については適正に執行され、令和5年度会計報告は関信支部の収支状況を正しく示しているものと認めます。

令和6年3月27日

幹事 遠藤 隆



幹事 小沼 進吉

